

登録有形文化財
筑波大学山岳科学センター
菅平高原実験所

大明神寮 保存活用計画



令和4年3月

国立大学法人筑波大学

登録有形文化財
筑波大学山岳科学センター
菅平高原実験所

大明神寮 保存活用計画

令和4年3月

国立大学法人筑波大学

卷頭写真



北西面



西面



南面



根子岳・四阿山方面を望む



南東面



北 面

序 文

登録有形文化財「大明神寮」のある筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所は、上信越高原国立公園に含まれる、長野県上田市から須坂市にまたがる標高 1,300 ～ 1,500 m の高原地帯「菅平高原」に敷地を構えます。筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所は、満蒙開拓が進められていた昭和当初、中国北東部と似た気象条件を備えた菅平高原で生物、農業の研究を行うことを目的に、1934 年（昭和 9 年）に東京文理科大学菅平高原生物研究所として発足しました。学制の改革に伴って東京教育大学理学部附属菅平高原生物研究所となり、その後、東京教育大学理学部附属菅平高原生物実験所、筑波大学菅平高原実験センターと改称され、さらに農林技術センター演習林部門と統合され筑波大学山岳科学センターが発足、菅平高原実験センターは菅平高原実験所と改名し現在に至っています。この間、菅平高原実験所は日本随一の山岳を対象にした教育研究施設として発展してきました。

1965 年（昭和 40 年）に学生、研究者の宿泊施設として建てられた大明神寮は、菅平高原実験所の教育研究活動を半世紀に亘って支えてきました。大明神寮は筑波大学のみならず日本の山岳科学の発展の歴史を伝える重要な建物ですが、大明神寮の価値はこれにとどまりません。合宿や研修などの中心地として有名な菅平高原が発展してきた背景には、大明神寮のような人が滞在することのできる宿舎の存在が大きかったことはいまでもありません。この意味で、大明神寮は、筑波大学の歴史はもとより菅平高原の歴史をも語り継ぐ重要な建物であるといえます。これに加え、大明神寮は宿舎として合理的につくられた建築物であり、とりわけ根子岳と四阿山を背負った立ち姿は、軽快で透明感があり、背後の風景と一体となって秀逸な景観を形づくっています。このような点から、大明神寮は登録有形文化財として登録されました。

このたび、筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所は大明神寮の保存、公開、活用に向けた基本方針となります「大明神寮保存活用計画」をとりまとめました。公開により山岳科学の教育研究活動、菅平高原の発展の歴史を伝えていきます。さらに、適切な保存措置を行うことで山岳科学の新たな教育研究活動を進めるとともに、市民や来訪者を対象としたフィールド活動や菅平高原、上田市の観光振興にも貢献していきたいと考えております。

最後に、保存活用計画策定委員会、文化庁、長野県教育委員会、上田市教育委員会、有限会社ウッドサークルの皆様方に、計画の策定にあたりご指導、ご協力賜りましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。

令和 4 年 3 月

筑波大学山岳科学センター
センター長 津村 義彦

例 言

1. 本書は、長野県上田市菅平高原に所在する登録有形文化財「筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所大明神寮」の保存活用計画書である。
2. 本書作成は、国立大学法人筑波大学が令和2年度～令和3年度に国庫補助事業として実施した。
3. 本書作成は、文化庁、長野県教育委員会および上田市教育委員会の指導・協力のもとに行った。
4. 本書作成に当たり、令和3年度に、保存活用計画策定委員会を設置し、4回の協議を行った。保存活用計画策定委員会の構成員は次のとおりである。

委員（委員長）	土本 俊和	信州大学工学部建築学科 教授
委員	前沢 幸盛	上田市菅平高原菅平区 区長
委員	下条 幹男	上田市菅平高原菅平区 元区長
委員	松倉 実	菅平ナチュラリストの会 代表
委員	津村 義彦	筑波大学山岳科学センター センター長
委員	深堀 直人	筑波大学施設部 部長
委員	呉羽 正昭	筑波大学生命環境系地球科学域 域長
上田市	中沢 徳士	上田市教育委員会生涯学習・文化財課 主任
筑波大学	出川 洋介	筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 所長
筑波大学	町田 龍一郎	筑波大学生命環境系 客員研究員
筑波大学	田村 幸人	筑波大学生命環境エリア支援室 室長
筑波大学（事務局）	樫山 茂樹	筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 専門職員

5. 本書の作成に係る業務は、有限会社ウッドサークル（東京都中央区日本橋人形町2丁目16番2号 代表取締役 中田英史）に委託し、実施した。
建物調査・本書作成 中田 英史，曾根田 雅彦，瀬口 世津子
6. 本書に係る諸記録は、国立大学法人筑波大学が保管している。

目 次

序文

例言

第1章 計画の概要	1
1 計画の作成	1
2 文化財の名称等	1
3 文化財の概要	2
4 文化財保護の経緯	28
5 保護の現状と課題	30
6 計画の概要	33
第2章 保存管理計画	36
1 保存管理の状況	36
2 保護の方針	55
3 管理計画	79
4 修理計画	82
第3章 環境保全計画	85
1 環境保全の現状と課題	85
2 環境保全の基本方針	85
3 区域の区分と保全方針	87
4 周辺環境における防災上の課題と対策	88
第4章 防災計画	92
1 防火・防犯対策	92
2 耐震・耐雪・耐風対策	95
3 その他の災害対策	96
第5章 整備・活用計画	97
1 整備・活用の基本方針	97
2 短期計画	97
3 中期計画	100
4 長期計画	101
5 普及・教育活動	104
第6章 保護に係る諸手続き	106
1 登録有形文化財に係る諸手続き	106
2 その他の手続き	107
巻末資料	109
資料1 登録有形文化財建造物に関する法令	111
資料2 古図面	117

